

オイルシェール開発事情



コロラド州のオイルシェールは全て石油メジャーが
Chevron、Shell に続いて Total も国有地で

先月のことですが Total が、米国の電気通信会社 IDT から同社のオイルシェール開発子会社 American Shale Oil (AMSO) の株式の 50% を取得することに合意しました。

Total と IDT は共同で、AMSO が連邦政府からリースしているコロラド州西部の鉱区で、オイルシェール開発の新技术の研究開発および実証試験を行ないます。

実証までは新技术を保有する AMSO が主導し、費用の大半は Total が負担します。

商業生産まで進むと Total が操業者になるといわれています。

もともとは

連邦政府は上記のオイルシェール鉱区を石油開発会社 E.G.L. Resources にリースしました。

2006 年のことです。

同じ時期に Chevron および Shell も、同じコロラド州西部で新技术の実証のためにオイルシェール鉱区のリースが認められました。

この 3 社はいずれも、オイルシェールを従来のように採掘するのではなく地中で油を回収する方法を提案し、これが環境への影響が最小限に留まると評価されて、国有地での実験が許可されました。

資金が必要です

オイルシェール開発の研究開発および実証は大事業です。

E.G.L. Resources は出資者を探していました。

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2009年2月 21 日)

そして 2008 年初めに、IDT が E.G.L. Resources のオイルシェール開発子会社 E.G.L. Oil Shale を買収し、この会社の社名を AMSO に変更しました。

当時は原油価格がバレル 100 ドルを超え始めたところで、オイルシェール開発への投資は魅力的でした。

後に IDT の Jonas 会長が、「オイルシェールからの油の生産コストはバレル 40ドルだが、これを 100ドル以上で販売できる」(2008 年 9 月 1 日、Forbes Asia)と語っています。

原油価格の大暴落で

IDT と石油メジャーとの交渉は本格化したようです。

IDT は、かなり以前から石油メジャー 2 社と接触していたようですが、最終的に Total との話がまとまりました。

もう 1 社の石油メジャーの社名はもちろん公表されていません。

ひとこと

無名の E.G.L. Resources がどのようにオイルシェールを開発するのか、2006 年当時から疑問を持っていました。

Total の参加で、コロラド州のオイルシェールは全て石油メジャーが面倒をみることになりました。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニューズワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)